



## 平成23年度 SSH生徒研究発表会に参加 ポスターセッション発表「ポーカープログラムの作成」



8月11日(木)・12日(金)の2日間、「SSH平成23年度生徒研究発表会」が神戸国際展示場で行われました。全体会では、2009年文化功労者 大阪大学免疫学フロンティア研究センター拠点長の審良静男氏による講演がありました。

本校からは環境科学科3年生の濱田信佑君、仲嶋楓君、村井和也君の3名と1年生の希望者が参加しました。ポスターセッションでは、3年生の3名が「ポーカープログラムの作成—最適手札の残し方—」について発表しました。参加した1年生たちも、積極的に各ブースをまわり、熱心に説明を聞いていました。

### 参加した生徒の感想より

3年生「他校の研究レベルがとても高いと感じました。あまり自分たちのブースを離れることができなかったため、見てまわる時間が短かったのが残念でした。さまざまな分野の人たちがポスターセッションを見に来てくれたり、研究した理論の未完の部分について議論したり、非常に貴重な発表の機会をいただいたと思います。作ったポーカージェームも、たくさんの人に楽しんでいただけてよかったです。」

1年生「普段は難しいと感じているような内容を、おもしろさを交えて説明してくれてよかったです。次もこのような機会があれば参加してみたいです。」「各高校によって、プレゼンテーションのしかたが異なり、今回の経験を来年の研究に活かしたいと思いました。」

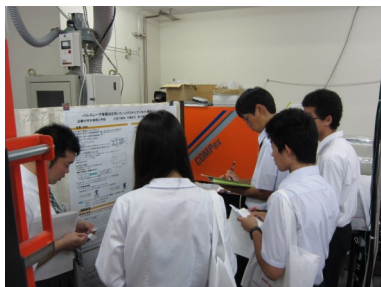


## 環境科学科1年 第1回研究室訪問 近畿大学生物理工学部研究室体験学習



8月6日(土)、近畿大学生物理工学部を訪問しました。生体機能とそのメカニズムを、ハイレベルな工学技術で再現する研究について学習することで、科学技術についての理解を深めるとともに、学問に対する研究者の姿勢についても学ぶことを目的としています。

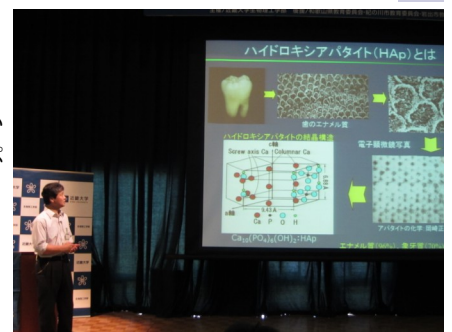
午前には、班別に6学科12研究室を見学し、大学での研究について分かりやすく教えていただきました。午後は、医用工学科の本津茂樹教授による「『歯のばんそうこう』〜極薄アパタイトシートの歯科応用〜」についての講義と、生物工学科の大和勝幸准教授による「庭の嫌われもの『ゼニゴケ』を使って科学する。」についての講義をお聞きました。



講義では、極薄アパタイトシートのエナメル質の修復・保護や知覚過敏の治療などについて説明していただきました。また、雑草として嫌われることも多いゼニゴケの実験生物としての重要性や研究内容について教えていただきました。

### 参加生徒の感想より

「システム生命科学科で聞いたロボットの声が人間らしくて驚いた。年齢や好きなものを入力すると、その人にあった音楽や絵が出てくるのもおもしろかった。」「今回の研修で最も興味をもったのは、「光るマウス」です。オワンクラゲという予想外の生物が関わっているところにも驚きました。」「スロートレーニングを体験したのは楽しかったし、義足の技術もすごいと思いました。」「80歳になると、歯が8本しかなくなると知り、驚きました。ハイドロキシアパタイトシートについて、さらに知りたいと思いました。」



### 見学させていただいた研究室

- ①生物工学科(植物育種学研究室、分子生物工学科研究室)
- ②遺伝子工学科(分子遺伝学研究室、発生遺伝子工学科研究室)
- ③食品安全工学科(動物栄養学研究室、分子生化学研究室)
- ④システム生命科学科(感性・知覚・脳機能研究室、生体計測・信号処理研究室)
- ⑤人間工学科(人間支援ロボット研究室、スポーツバイオメカニクス研究室)
- ⑥医用工学科(生体材料・デバイス工学科研究室、臨床工学科研究室)

